

3～4ヶ月健康診査における保護者の目的達成状況と満足状況

—市町が実施する集団健康診査について—

大池 明枝^{1)*}, 辻 よしみ¹⁾, 中添 和代¹⁾, 川瀬 峰子²⁾

¹⁾香川県立保健医療大学保健医療学部看護学科

²⁾西讃保健福祉事務所

Expectations of Mothers of 3-4 Month-Old Infants And Rates of Satisfaction with Community Mass Health Screening

Akie Ooike^{1)*}, Yoshimi Tsuji¹⁾, Kazuyo Nakazoe¹⁾ and Mineko Kawase²⁾

¹⁾Department of Nursing, Faculty of Health Sciences, Kagawa Prefectural College of Health Sciences, ²⁾Seisan Health and Welfare Office

Abstract

A questionnaire survey was administered to the mothers who brought their 3 to 4 month-old infants for health checks, to investigate their expectations and satisfactions. The most common reasons why they had their infants screened were that they might “know about their infants’ growth and development”, “ask medical professionals about their problems pertaining to their cares” and “make friends with other mothers and talk about childrearing”. The rates of their satisfactions for these three items were 90, 80 and 52%, respectively. Seventy percent of the respondents said that they “had had ample opportunities to talk with the staffs satisfactorily” and that they “had had some who listened to them” and that those two points helped them feel satisfied. Also, 89% of the mothers were satisfied with the health screening as a whole. The results show that their satisfaction was caused by “the good set-up of the site”, “easy procedures”, and “the suitable attributes of the physicians who were in charge of it”.

Key Words : 3～4ヶ月健康診査 (Health Screening for 3 to 4 Month-Old Infants), 受診目的 (Reasons for Consultations), 満足状況 (Satisfaction)

*連絡先: 〒761-0123 香川県木田郡牟礼町大字原281-1 香川県立保健医療大学保健医療学部看護学科 大池 明枝

*Correspondence to: Akie Ooike, Department of Nursing, Faculty of Health Sciences, Kagawa Prefectural College of Health Sciences, 281-1 Hara, Mure-cho, Kita-gun, Kagawa, 761-0123, Japan

はじめに

乳幼児健康診査は、乳幼児の発育・発達の確認及び疾病・障害などの早期発見の場として重要である。さらに市町村で実施する乳幼児健康診査は、親子の良好な関係づくりや育児の交流のきっかけづくり、話を聞いてもらえる安心の場として期待されている¹⁾。

A県B保健所管内の市町は、小児科医が少ない現状もあり自治体において集団健診として実施する乳幼児健康診査の必要性が高い。一方、市町合併の話し合いがすすめられている中で効果的な乳幼児健康診査の在り方が求められている。また、B保健所管内では保健所と市町の保健師が子育て支援について検討する事業を立ち上げ、乳幼児健康診査において育児不安などハイリスク母子の早期発見を目的にした質問表を考案するなどの検討を重ねてきている。

そこで今回、B保健所管内1市9町での合併後の効果的な乳幼児健康診査の在り方を検討するため、B保健所管内市町で実施している3～4ヶ月健康診査（以後健診とする）における保護者の満足状況等を調査したので報告する。

対象および方法

1. 調査期間

平成15年9月～12月。

2. 調査対象者

B保健所管内1市9町の健診を受診した乳児の保護者333名（年間出生数約1,100名）。

3. 調査方法

自記式アンケート調査。健康診査終了後、健診従事者が調査の主旨を説明し、同意を得られた保護者に健診会場にて記入してもらい回収した（一部郵便にて返送）。有効回収数は302通（有効回収率90.7%）であった。

4. 調査内容

①母親の属性

②健診受診の目的

B保健所管内の各市町毎に保健師が健診の目的について話し合い確認した内容を9項目に分類して調査項目を設定した（項目は表2を参照）。

③健診受診目的の達成状況とその理由

達成状況は「達成された」「達成されなかつ

た」「どちらともいえない」の3項目を設定した。さらに、健診受診目的の6項目については共通に「達成された」理由として、「安心して話ができ」「十分に話を聞いてもらった」「納得できる説明があった」「情報交換でき納得した」「その他」を設定した。また、「達成されなかった」理由として「ゆっくり話ができにくかった」「プライバシーが守られていなかった」「対応が悪かった」「説明がわからなかった」「その他」を設定した。「どちらとも言えない」理由については自由記載とした。

④今後の健診受診と保健師への相談の意志

「思った」「どちらともいえない」「思わなかった」の3項目を設定した。

⑤健診所要時間への意識

「適当」「長い」「短い」の3項目を設定した。

⑥健診の満足状況

「満足できた」「まあまあ満足できた」「どちらともいえない」「あまり満足できなかった」「全く満足できなかった」の5項目を設定した。

5. B保健所管内の健診の方法

①健診の内容と流れ

健診の内容と流れは受付・問診、計測、診察、相談であった。1町はブックスタート事業（「絵本」を介して肌のぬくもりを感じながらことばと心を通わすことを応援する事業）を実施した。また、1町は中学生の「赤ちゃんふれあい体験学習」を実施した。

②健診従事者

医師（主に内科医あるいは小児科医）、保健師、看護師、栄養師、事務職であった。

③対象

3～4ヶ月児。1町は他の月齢の乳児も対象としていた。

結果及び考察

1. アンケート記入者

85.1%が母親、1.7%が祖母であった。

2. 母親の属性（表1）

母親の年齢は16歳～44歳で、中央値は29歳であった。仕事をしていない母親が207名（68.5%）であった。現在住んでいる市町での居住年数は0～5年が193名（63.9%）であり、育児について相談する人がいる母親が296名（98.0%）であった。また、育児を手伝ってくれる人がいる母親が

292名(96.7%)であった。核家族は178名(59.0%), 複合家族が120名(39.7%)であった。健診会場までの交通手段は、自家用車が280名(92.7%)であった。会場までの所要時間は、15分未満が260名(86.1%)であった。

表1 母親の属性

n=302

項目	n(%)	
年 齢	16~20歳	10(3.3)
	21~25	51(16.9)
	26~30	130(43.1)
	31~35	72(23.8)
	36~40	19(6.3)
	41以上	6(2.0)
	不明	14(4.6)
仕 事	常勤	50(16.5)
	パート	15(5.0)
	自営業	15(5.0)
	その他	2(0.7)
	なし	207(68.5)
	不明	13(4.3)
居 住 年 数	5年未満	193(63.9)
	5年以上	94(31.1)
	不明	15(5.0)
育児について 相談する人	有	296(98.0)
	無	1(0.3)
	不明	5(1.7)
育児を手伝っ てくれる人	有	292(96.7)
	無	3(0.9)
	不明	7(2.4)
家 族 形 態	核家族	178(59.0)
	複合家族	120(39.7)
	不明	4(1.3)

3. 健診の目的(表2)

健診受診目的の上位3つは「子どもの発育状況を知りたい」が289名(95.7%), 「子どもの発育や身体のことについて気になることについて相談したい」が137名(45.4%), 「他のお母さんと友達になったり、育児について話がしたい」が99名(32.8%)であった。このことから、保護者の子どもに対する「発育や身体への関心」の高さと保護者が健診を「発育状況を把握する」場として十分理解していることが窺える。また、3割の保護者が健診の場において「他の母親との交流」を求めていることがわかった。

目的の上位3つには入らなかったが、72名(23.8%)の保護者が「自分の育児方法の確認を

する」目的で受診している。このことから、医師、保健師等専門職による育児方法の支持へのニーズがあることが示唆される。

「育児の悩みを相談したい」保護者は25名(8.3%)であった。大阪レポート²⁾の基盤になっている1980年の調査でも、4ヶ月健診時における「今までの育児で最も心配だった時期」について質問しているが、退院から1ヶ月が最も多く26%, 次に多いのが退院直後24%, 次が1~2ヶ月17%, 4ヶ月現在9%, 2~3ヶ月8%となっている。兵庫レポート³⁾の基盤になっている2003年の調査でもほぼ同様な結果となっている。B保健所管内の3~4ヶ月健診での育児の悩みにおいては大阪レポート等と一致している。これらのことより、3~4ヶ月の頃は育児についての心配が減少する時期であること、また、98.0%が相談する人がおり、96.7%が育児を手伝ってくれる人がいるという回答者の属性からも、健診の場で育児の悩みを相談したい保護者が他の目的に比較して少ないと考えられる。

「自分の身体や気持ちについて相談したい」は10名(3.3%)と少ない。また、「家族のことで相談したい」も少なく2名(0.7%)であった。

以上のことから、B保健所管内市町の3~4ヶ月児をもつ保護者は、周囲の助言や手助けを受けながら、不安や心配なことを乗り越え、育てた我が子の発育・発達の把握と相談、育児方法の専門職による支持及び同じように頑張っている母親との交流へのニーズが高いことが明らかとなった。

表2 保護者の3~4ヶ月健康診査受診の目的

(複数回答有) n=302

目 的	n(%)
①子どもの発育状況を知りたい	289(95.7)
②子どもの発育や身体のことについて気になる事について相談したい	137(45.4)
③自分の育児の方法でよいかどうかを知りたい	72(23.8)
④育児について悩んでいる事があり相談したい	25(8.3)
⑤自分の身体や気持ちについて相談したい	10(3.3)
⑥家族のことで相談したい	2(0.7)
⑦他のお母さんと友達になったり育児について話がしたい	99(32.8)
⑧特に思いはなかった	4(1.3)
⑨その他	4(1.3)
⑩不明	4(1.3)

4. 健診受診目的の達成状況

受診目的の1位であった「子どもの発育状況を知りたい」は260名(90.0%)が達成され、受診目的2位の「子どもの発育や身体のことについて気になる事について相談したい」は110名(80.3%)が達成されていた。この2つの目的は従来の乳幼児健康診査の「発育・発達を評価し、疾病や障害の早期発見する」という目的とも一致するものであり、健診従事者のこれまでの努力の成果であると思われる。72名の保護者が受診目的としていた「自分の育児方法でよいのかどうかを知りたい」は56名(77.8%)が達成され、25名の保護者が受診目的としていた「育児について悩んでいる事があり相談したい」は18名(72.0%)が達成されており、前記2項目の達成状況よりやや低い傾向にある。このことは、保護者が育児に自信を持つこと、育児の悩みや不安を軽減することへの支援において、今後さらに努力を積んでいくことの必要性を示唆していると考えられる。

また、受診目的の第3位の「他のお母さんと友達になつたり、育児について話したい」の達成状況は51名(51.5%)と他の達成状況に比べ低かった。

5. 健診受診の目的が達成された理由(表3)

子どもに関することが目的となっている①～④の項目をみると、どの目的項目においても「安心して話ができた」が最も多く66.1%～83.3%となっていた。また、健診受診目的①～⑥をみると、

全意見数727件のうち「安心して話ができた」が342件(47.1%)を占め、「十分話を聞いてもらえた」が165件(22.6%)、「納得できる説明があった」が158件(21.7%)を占めていた。この「安心して話ができた」、「十分話を聞いてもらえた」の2つの理由が全理由の7割を占めている。したがって、健診が安心して話を聞いてもらえる場になっていること、保健師をはじめ健診従事者が、保護者の育児における思い・心配・不安に耳を傾け暖かく受けとめ、保護者が本来持っている力が発揮できるように支援できる存在になってきていると考える。このことは後述する「今後の健診受診」、「今後の保健師への相談」の意思がある保護者がそれぞれ92%、86%とかなり高い結果であることから窺える。

また、「他のお母さんと友達になつたり、育児について話したい」の目的が達成された理由は、「ゆっくり話ができた」が38名(74.5%)、「場の設定がよかった」が18名(35.3%)であった。

6. 健診の目的が達成されなかった理由(表4)

健診受診目的①～⑥の項目において、目的が達成されなかった保護者は20名であった。そのうち、「ゆっくり話ができにくかった」が最も多く15件、「説明がわからなかった」「対応が悪かった」がそれぞれ3件と2件あった。このことから、集団健診という時間的に制限のある場で個別のニーズを丁寧に受けとめどう充足させていくかという課題が明らかになってきた。

表3 健診目的①～⑥が達成された理由(複数回答有)

目的	理由	安心して話ができ できた	十分話を聞いて もらえた	納得ができる 説明があった	情報交換でき 納得した	その他
①子どもの発育を知る n=260		209 (80.4)	69 (26.5)	79 (30.4)	33 (12.7)	2 (0.8)
②発育・身体を相談 n=110		78 (70.9)	54 (49.1)	48 (44.5)	12 (10.9)	0
③育児方法の確認 n=56		37 (66.1)	29 (51.8)	24 (42.9)	12 (21.4)	0
④育児についての悩み の相談 n=18		15 (83.3)	9 (50.0)	7 (38.9)	3 (16.7)	0
⑤自分の身体や悩みを 相談 n=5		2 (40.0)	4 (80.0)	0	0	0
⑥家族のことで相談 n=1		1 (100.0)	0	0	0	0
計 727<100.0>		342 <47.1>	165 <22.6>	158 <21.7>	60 <8.3>	2 <0.3>

nは達成できた人数 ()内は達成できた人に対する割合 < >内は理由総数に対する割合

表4 健診の目的①～⑥が達成されなかった理由(複数回答有)

nは達成できなかった人数

目的	理由	ゆっくり話 ができにく かった	プライバシー が守られて いなかった	対応が悪か った	説明がわか らなかった	その他
①子どもの発育を知る	n=7	4	0	2	2	0
②発育・身体を相談	n=5	4	0	0	0	0
③育児方法の確認	n=5	4	0	0	1	0
④育児についての悩みを相談	n=2	2	0	0	0	0
⑤自分の身体や悩みを相談	n=1	1	0	0	0	0
⑥家族のことで相談	n=0	0	0	0	0	0
計	n=20	15	0	2	3	0

表5 健診に要した時間に対する意識

n=人数 () %

場所 意識	受付・問診	診察	相談	全体的に
適当	241 (79.8)	222 (73.5)	243 (80.5)	214 (70.8)
長い	26 (8.6)	25 (8.3)	11 (3.6)	42 (13.9)
短い	23 (7.6)	27 (8.9)	16 (5.3)	12 (4.0)
不明	12 (4.0)	28 (9.3)	32 (10.6)	34 (11.3)
計	302 (100.0)	302 (100.0)	302 (100.0)	302 (100.0)

「他のお母さんと友達になったり、育児について話しがしたい」で達成されなかった保護者は27名であった。その理由は、「ゆっくり話ができなかった」が最も多く18件、次いで「きっかけがつかめなかった」が12件、「場の設定が悪かった」が1件であった。子育て支援の中心的な役割が期待されている母子保健施策⁴⁾の重要な位置にある健康診査事業が、単に発育発達の評価や疾病・障害の早期発見に留まらず「育児の交流の場」になるためにも、集団健診の場において他の保護者と「ゆっくり話ができる」場の設定と「交流できるきっかけを掴める」場づくりが求められている。

7. 今後の乳幼児健康診査への参加の意志

今後市町の実施する乳幼児健康診査に「参加したいと思った」保護者は277名(91.7%)と多く、「どちらとも言えない」10名(3.3%)、「参加したいと思わなかった」のはわずか1名(0.3%)であった。

8. 今後の保健師への相談の意志

今後何かあれば保健師に「相談したいと思っ

た」保護者260名(86.1%)、「どちらとも言えない」24名(7.9%)、「思わなかった」はわずか3名(1.0%)であった。今後の保健師への相談の意思が健診への参加の意思より低いのは、周囲に相談する人がいる保護者の属性も影響していると思われる。

9. 健康診査に要した時間に対する意識(表5)

健診に要した時間について各場所別にみると、適当と回答した保護者が最も多く241名(79.8%)～214名(70.8%)であった。長いと回答した保護者は「全体的に」が最も多く42名(13.9%)、反対に短いと回答したのは「診察」が最も多く27名(8.9%)であった。

10. 今回の健診の満足状況(表6, 表7)

健診に対する満足状況については、「満足できた」156名(51.7%)、「まあまあ満足できた」112名(37.1%)、「どちらとも言えない」13名(4.3%)、「あまり満足できなかった」8名(2.6%)、「全く満足できなかった」1名(0.3%)であった。「満足できた」「まあまあ満足できた」を合わせると268名(88.7%)が満足できていた。反対に「あまり満足できなかった」「全く満足できなかった」を合わせた9名(3.0%)が満足できていなかった。

「満足できなかった」理由の自由記述は8件あり健診医への期待に関するもの4件、会場設営や健診手順への配慮に関するもの4件であった。

2000年に国民運動として計画された「健やか親子21」⁵⁾では、平成12年度幼児健康度調査報告書⁶⁾の結果をもとに保健所・保健センターでの乳幼児健康診査の満足している者の割合を「30.5%」から2010年には「増加傾向」とその目標を定めている。2000年から3年間は経過しているものの、B保健所管内の市町が実施する健診に満足している

者の割合はかなり高いと推測される。また、「満足できなかった理由」から、会場設営や健診手順への配慮、健診医の充実が健診を「満足」なものにできる条件であることが判明した。

B 保健所管内は小児科医が少なく医師会委託により、健診医も医師会が順番で決め、午後の診療開始前に健診を済ませる場合が殆どである、また、後述する「健診に対する自由意見」の中にも健診の精度の視点から小児科医の従事を求めるものがあり、市町で実施する健診をよりニーズに合ったものにするためには、この健診医への対策が一つの鍵となると考えられる。

11. 今回の健康診査に対する自由意見（表8）

表6 健診の満足状況 n=302

状 況	n (%)
満足できた	156 (51.7)
まあまあ満足できた	112 (37.1)
どちらとも言えない	13 (4.3)
あまり満足できなかった	8 (2.6)
全く満足できなかった	1 (0.3)
不明	12 (4.0)

肯定的な意見27件、今後に期待する意見28件であった。肯定的意見では、「保健師等従事者に相談できてよかったこと」が15件で最も多く、他に「待ち時間が少なくてよかったこと」「ブックススタート事業に感動・感謝していること」などがあった。今後に期待する意見では、「会場設営に配慮して欲しいこと」が最も多く、次に「健診の手順がわかるようにして欲しいこと」が多かった。他に、「待ち時間を短くして欲しいこと」「母親同士の交流の場・時間を設けて欲しいこと」「専門職配置をして欲しいこと」があった。母子が安心安楽に健診に臨める会場設営や手順、保護者が納得できるものを同時に開催するなど、母子の立場最優先で今一度検討する必要があるのではないかと思われた。

結 論

A 県 B 保健所管内市町の合併後の効果的な乳幼児健康診査のあり方を検討するために、3～4ヶ月健康診査におけるアンケート調査で次のことが明らかになった。

1. 健診受診の目的の上位3つは、「子どもの発育

表7 健診が満足できなかった理由

n=9

項 目	内 容
健診医への期待 4件	<ul style="list-style-type: none"> ・担当医師のコメントがない。ただ身体を診ただけ、何の相談もできなかった ・聞いても納得のいく説明がなかった ・股脱検診の先生の声が低く、聞き取りにくかった ・会場に着いた時医師が帰った後で、診察を受けることができなかった
会場設営・健診手順への配慮 4件	<ul style="list-style-type: none"> ・順番がわからず、内診等受付順に番号を決めて欲しい ・沢山の赤ちゃんがいたので仕方がないが、待つ場所に困った。立って赤ちゃんを抱いて待っている人もいたのでイスなど出して欲しかった ・並んでも手順がわからなくなった ・場所が狭い。身長、胸囲も測って欲しい

表8 今回の健診に対する自由意見

n=47

項 目	内 容	件 数
肯定的な意見 (27件)	保健師等健診従事者に相談できよかった	15
	待ち時間が少なくてよかった	3
	ブックススタート事業に感動・感謝している	2
	その他	7
今後に期待する意見 (28件)	室内温度、待つ場所等会場設営に配慮して欲しい	9
	健診の順序、受診者の順番がわかるような配慮が欲しい	7
	待ち時間を短くする配慮が欲しい	4
	赤ちゃんふれあい体験等の同時開催に無理がある	3
	母親同士が交流できる場・時間を設けて欲しい	3
	小児科の専門医等専門職配置をして欲しい	2

状況を知りたい],「子どもの発育や身体のこと
で気になる事について相談したい」,「他のお母さん
と友達になったり育児について話がしたい」であ
り,各目的の達成状況は,90%,80%,52%であ
った。

2. 健診受診目的が達成された理由の7割を「安心
して話ができ」「十分話を聞いてもらえた」が
占め,健診が話しを聞いてもらえる安心の場とな
っていた。
3. 健診の満足状況は89%が「満足」としており,
「会場の設営」「健診の手順」への配慮と「健診
医」の充実が「満足」状況に影響していることが
判明した。

おわりに

今回の研究結果は,市町で実施する乳幼児健康診
査の最初の健診である3~4ヶ月健康診査を,育児
支援の貴重な機会と位置づけ,さらに充実させてい
く上で意義があると考えます。また,育児支援につ
いて検討を重ねてきているB保健所管内の保健師に
とって,保護者の健診の目的を明らかにできたこ
と,目的毎の達成状況,健診の満足状況と満足に影
響する条件が明らかになったことで今後の検討の方
向性がさらに明確になった。

今回の結果は,健康診査が集団健診であり,健診
内容や方法の大部分が共通であるという中で得られ
たものである。今後は,各市町毎に分析し,結果に
特徴や違いがみられる部分について丁寧に検討を重
ね,そのことを合併後の健診の在り方を考える上で
加味していきたい。

文 献

- 1) 健やか親子21検討会(2003)健やか親子21検討会報告
書,“5訂母子保健の解釈と運用”(母子保健推進研究
会監修),中央法規,東京,p260.
- 2) 服部祥子,原田正文(1999)“乳幼児の心身発達と環境
—大阪レポートと精神医学的視点—”,初版,名古屋大
学出版会,名古屋,p326.
- 3) 原田正文(2004)育児不安を解消する子育て支援とは,
保健師ジャーナル,60:922-923.
- 4) 母子保健マニュアル作成委員会(1996)“母子保健マニ
ュアル”,初版,母子保健事業団,東京,p2.
- 5) 前掲1),p286.
- 6) 日本小児保健協会(2001)乳幼児健康診査に満足して
いる者の割合.社会福祉・医療事業団(子育て支援基
金)助成事業,平成12年度幼児健康度調査報告書,p
6-7.

受付日 2004年10月29日